

歴博を活用した授業づくり

—江戸図屏風から読み解いて—

千葉県船橋市立夏見台小学校 五木田 裕介

1. 実施学年及び教科・領域

小学校第6学年 社会科

2. 学習のねらいと博物館の活用との関連について

(1) 単元名

「江戸幕府と政治の安定」

(2) ねらい

①学習指導要領との関連

社会〔第6学年〕

2 内容の(1)

オ キリスト教の伝来、織田・豊臣の天下統一、江戸幕府の始まり、参勤交代、鎖国について調べ、戦国の世が統一され、身分制度が確立し武士による政治が安定したことが分かること。

②単元の目標

- ・江戸幕府による参勤交代などの大名統制、身分制度、海禁政策などに関心をもち、進んで調べようとする。(社会的事象への関心・意欲・態度)
- ・参勤交代の制度や身分制度の確立、キリスト教の禁止と海禁政策について調べたことを比較したり関連づけたりして、適切に言語などに表現する。(社会的な思考・判断・表現)
- ・文化財、地図や年表、その他の資料を活用して、参勤交代の制度や身分制度、海禁政策などについて情報を集め、読み取り、ノートやワークシートなどにまとめる。(観察・資料活用の技能)
- ・江戸幕府によって世の中の仕組みが整えられ、身分制度が確立して武士による政治が安定したことが分かる。(社会的事象についての知識・理解)

(3) 博物館との関連

①活用方法

非来館型活用

②活用資料

【貸出教材】

- ・江戸図屏風床置きパネル(左隻)
- ・江戸図屏風パズル(日本橋)
- ・江戸図屏風パズル(朝鮮通信使)

【WEBギャラリー】

- ・江戸図屏風(左隻)

・江戸城登城風景図屏風

【館蔵資料画像データベース】

・四季農耕図屏風

(4) 指導観

①江戸図屏風を活用した学習の導入

「江戸時代」と聞いても、今の子供たちにとっては漠然としたイメージ、またはほとんどなじみのない言葉のように感じる。江戸図屏風を見て、子供たちが素直に興味を持ったことに着目し、江戸時代の学習を進めていきたい。

②農村の生活に焦点を当てた学習

教科書通りに学習を進めると、幕府の政治を中心に江戸時代の学習は始まっていく。また、「人々の暮らしと身分」を扱っているページでは、身分制度についての説明が多く、江戸時代は暗く、遅れた時代という印象を受けやすい。「四季農耕図屏風」などを活用し、当時の人々のたくましさや実際の生活について考えさせたい。

③海外とつながり

海外とのつながりについても江戸図屏風を活用し、理解を深めていきたい。特に朝鮮通信使については、江戸図屏風に描かれているが、服装や行列の規模も実際とは違っているため、他の資料と比較させて実際にはどうだったのか、どのようなきっかけで国交を結んでいたのかを考えさせたい。

3. 指導計画（6時間扱い）

過程	時間	○学習活動及び内容	□指導上の留意点 ■評価の観点
導入	1	○江戸図屏風床置きパネル(左隻)を見て、「これはなんだ！？探し」をする。 ○「これはなんだ！？探し」の共有をする。	□児童一人一人が課題をもてるように、「これはなんだ！？探し」を行う。 □活動の前に江戸図屏風について、簡単な説明をする。(描かれた時代や金雲などについて) □活動後、数名を指名し、ワークシートにまとめた内容を発表させ、「これはなんだ！？探し」の共有を行う。 ■「これは何だ！？探し」を通して、江戸時代について興味・関心を持っている。(ワークシート・関)
展開1	2	○江戸図屏風に描かれている大名屋敷を見て、誰の屋敷なのかを考える。また、なぜ江戸に大名の屋敷があるのかを考える。	□WEB ギャラリーを使用して、江戸図屏風に描かれている大名屋敷を見せる。 ■江戸図屏風に描かれている大名屋敷を見て、なぜ江戸に大名の屋

		<p>○考えたことをもとに、教科書などの資料から参勤交代などの制度について調べる。</p>	<p>敷があるのかを考えることができる。(ノート、発表・思)</p> <p>□大名の屋敷が江戸にある理由から、参勤交代などの制度について調べる。</p> <p>□参勤交代の様子については、当時の江戸の賑わいなどが実感できるように、WEB ギャラリーの江戸城登城風景図屏風も見せる。</p> <p>■教科書や資料集を使って、参勤交代などの制度について調べることができる。(ノート・技)</p>
展開 2	3	<p>○江戸図屏風に描かれている日本橋の様子を見て、江戸職業探しを行う。</p> <p>○職業探しの共有を行い、身分制度について調べる。</p>	<p>□日本橋の江戸図屏風パズルを使い、江戸（日本橋）には、どんな人々が暮らしているのかを調べる。</p> <p>■江戸図屏風パズルを見て、進んで職業探しを行っている(ノート・関)</p> <p>□日本橋に描かれている差別されていた人々について触れ、身分について調べる。</p> <p>■教科書や資料集などを使い、身分制度について調べることができる。(ノート・技)</p>
展開 3	4	<p>○四季農耕図屏風を見て、農村の暮らしについて調べる。</p> <p>○調べたこと、気づいたことの共有を行う。また、当時の百姓の暮らしについて考える。</p>	<p>□江戸図屏風にも農村の様子が描かれていることに触れる。</p> <p>□四季農耕図屏風は、一年間の農村の様子が描かれていることを押さえ、農村の仕事について調べる。</p> <p>□仕事以外の場面にも着目し、気づいたことを書く。</p> <p>■教科書や資料集を使いながら、四季農耕図屏風に描かれている農作業の様子について調べることができる。(ワークシート・技)</p> <p>■農作業の様子やそれ以外の様子から、当時の百姓の暮らしについて考えることができる。(ワーク</p>

			シート、発表・思)
展開 4	5	<p>○江戸図屏風に描かれている朝鮮通信使を見て、どこの国から何のためにやってきた人たちなのか考える。</p> <p>○当時の海禁政策、キリスト教の禁止について調べる。</p>	<p>□江戸図屏風パズル（朝鮮通信使）を使い、朝鮮と日本のつながりについて考える。</p> <p>□江戸図屏風に描かれている朝鮮通信使は、実際の服装や様子が違っているため、他の資料と比較する。</p> <p>■江戸図屏風パズルを見て、どこの国からなんのためにやってきたのかを考えることができる。（ノート、発表・思）</p> <p>□教科書や資料集を使用して、当時の海禁政策、キリスト教の禁止について調べる。</p> <p>■教科書や資料集を使い、当時の海禁政策、キリスト教の禁止について調べることができる。（ノート・技）</p>
まとめ	6	<p>○学習した感想をノートにまとめる。</p>	<p>□これまでに学習したことを振り返り、ノートに感想を書く。</p> <p>■参勤交代や身分制度などの政策により、安定した世の中になったことが分かる。（ノート・知）</p>

4. 実践の概要

(1) 江戸図屏風を活用した学習の導入

①「これはなんだ！？探し」をして、一人一人課題をもつ

「赤と白の服を着た集団はなんだ？」「土下座している人はなんだ？」「ギターを持っている人はなんだ？」など、児童たちは多くの「なんだ？」を探すことができた。

特に服装や持っているものに注目する児童が多かったが、江戸時代の職業や身分、町の賑わっている場所などに気づき、これからの学習につながる「なんだ？」を多く探すこ



江戸図屏風を見ている様子

とができた。また、どこの国から何のためにやってきたのかは分かっていないが、江戸城に登城する朝鮮通信使に注目する児童もいた。

②学習の感想

「昔は戦いだけじゃなくて、にぎやかな場所があることがわかった。江戸の人たちや昔の人は個性的だと思った。」

「今とは違ういろんな建物や人がいて、すごく時代が変わったんだなと思った。(中略)今の東京は、スーツを着ている人が多いけど、江戸時代はいろんな服を着ているなと思った。」

「江戸城が描かれた江戸図屏風は江戸時代についての物や風景が多く描かれていて、名前の知らない道具や今でも残っている地名などがあり、歴史の授業がもっと知りたいと思える授業でした。」

「江戸の絵を見て、いろんなことが知れて良かった。(中略)よく見てみると、これはなんだ!?!と思うことがたくさんあっておどろいた。もっといろんなことを知りたいと思った。」

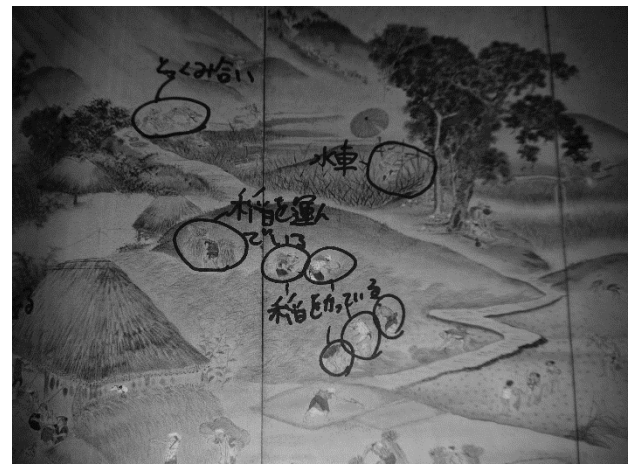
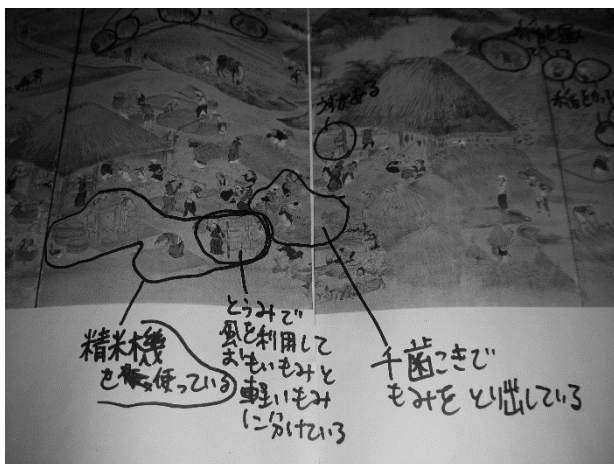
「江戸図屏風を使った授業はいろいろなことが分かっておもしろかったです。もっといろいろな発見がしたいです。こんどは右の江戸図屏風も見たいです。」

(2) 農村の生活に焦点を当てた学習

①児童が注目した農村の様子

「人々のくらしと身分」の学習では、特に百姓のくらしに焦点を当てたいと思い、館蔵資料画像データベースから四季農耕図屏風のデータを送ってもらい、教材として使用した。

教科書や資料集を使いながら農作業の様子を調べたり、農作業の様子以外に気づいたことなども見つけさせたりした。児童たちには右隻と左隻の資料を渡し、ペアで学習させたのだが、話し合いながら資料をよく読みとっていた。



児童が書き込んだワークシート

②学習の感想

「江戸時代の農民は休むひまなく、春夏秋冬がんばって稲を育てたりしているからすごいと思った。(中略)江戸時代は水のことで争っていたけど、農民のやる気はすごいと思った。」

「江戸時代でもいろいろな道具を使って作業をしていてびっくりした。馬や牛を使

って農作業をしていた。馬を使って米をはこんでいたから、遠くまで運ばないといけないかと思うし、大変だったと思う。」

「春から冬にかけて百姓（農民）は、休まず一生懸命働いているけど、少しの休み時間などに猿回しなどの行事を行っていて、今でも残っている文化があり、先人達の知恵が分かりました。」

（3）海外とつながり

① どの国から、なんのために？

海外とのつながりの学習の導入では、江戸図屏風パズル（朝鮮通信使）を使用して学習を行った。そして、パズルを完成させた後、児童たちにパズルに描かれた人たちはどこからやってきた人たちなのかを聞いた。

『この江戸図屏風パズルに描かれている人たちはどの国からやってきた人たちでしょう？』

「メキシコだと思います」

「モンゴルだと思います」

『もっと近い国からきた人たちです』

「中国だと思います」

『この時代に、国交のあった国です』

「朝鮮だと思います」

服装の様子からメキシコやモンゴルではないかと考える児童が現れ、もっと近くの国であることをヒントに出すと、ようやく「中国だと思う」「朝鮮だと思う」という意見がでてきた。

② 2つの資料を比べてみて



↑江戸図屏風に描かれている朝鮮通信使



↑別の資料の朝鮮通信使

児童たちがメキシコやモンゴルから来た人たちではないかと考えるのは無理もなく、江戸図屏風に描かれている朝鮮通信使は、実際の服装も行列の数も違うからである。そのため、児童たちにはもう一つの資料（朝鮮人来朝行列図※）と比較させ、朝鮮通信使について学習した。

また、朝鮮の他にも中国やオランダ、アイヌとの交流や貿易があったことを教科書や資料集を使い調べ、当時の海禁政策やキリスト教の禁止などについて学習を行った。

※朝鮮人来朝行列図・・・朝鮮人来聘記の付図、京都大学大学院文学研究科図書館所蔵。

1748年、第十回の通信使の時、淀藩の接待役であった当時48歳の渡辺善右衛門守業（わたなべぜんえもんもりよし）が描いたもの。

5. 成果と課題

(1) 成果

- ・当時、描かれた江戸図屏風や四季農耕図屏風を使用したことで、児童たちは具体的なイメージをもって学習を行うことができた。
- ・江戸図屏風床置きパネルを使って学習の導入を行ったことで、一人一人が課題をもって学習に取り組むことができた。
- ・学習の展開においても江戸図屏風を使用したことで、児童たちの課題を読み解いていくことができた。

(2) 課題

- ・今回は貸出教材を使用していた非来館型の学習を実施したが、第3展示室の資料をもっと活用したい。特に海外とのつながりを学習する上で、まだ活用したい資料が多くある
- ・児童たちの課題の中には、未解決なものもあったため、博物館に手紙を送って疑問に答えてもらうなどの方法もあると考えた。